

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> 東九州自動車道 <small>さいき かまえ</small> 佐伯～蒲江	<b>事業</b> 高速自動車 <b>区分</b> 国道	<b>事業</b> 国土交通省 <b>主体</b> 九州地方整備局				
<b>起終点</b> 起点：大分県佐伯市大字上岡 <small>さいきし おおあさかみおか</small> 終点：大分県佐伯市蒲江大字森崎浦 <small>おおいたけんさいきしかまえ おおあざもりさきうら</small>		<b>延長</b>  20.4km				
<b>事業概要</b> 東九州自動車道は、九州縦貫道、九州横断道と一体となって高速道路ネットワークを形成し、九州地方の一体的な産業、経済、文化の交流発展に資する道路である。 本道路は、九州東部の広域的な連携を図り、物流の効率化及び地域の発展等を支援し、また、国道10号及び国道388号の災害時における代替路線としての機能を有する延長20.4kmの道路である。						
H10年度事業化      H一年度都市計画決定      H18年度用地着手      H18年度工事着手						
<b>全体事業費</b> 約763億円 <b>事業進捗率</b> 24% <b>供用済延長</b> — km						
<b>計画交通量</b> 8,300台/日						
<b>費用対効果分析結果</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> <b>B/C</b>  <small>(事業全体)</small>                      1.4   <small>(残事業)</small>                      2.1                 </td> <td style="text-align: center;"> <b>総費用</b>      <small>(残事業)/(事業全体)</small>                      478/731億円                      〔事業費：429/681億円〕                      〔維持管理費：49/49億円〕                 </td> <td style="text-align: center;"> <b>総便益</b>      <small>(残事業)/(事業全体)</small>                      1,018/1,018億円                      〔走行時間短縮便益：862/862億円〕                      〔走行経費減少便益：82/82億円〕                      〔交通事故減少便益：73/73億円〕                 </td> <td style="text-align: center;"> <b>基準年</b>                      平成22年                 </td> </tr> </table>	<b>B/C</b> <small>(事業全体)</small> 1.4  <small>(残事業)</small> 2.1	<b>総費用</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small> 478/731億円 〔事業費：429/681億円〕 〔維持管理費：49/49億円〕	<b>総便益</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small> 1,018/1,018億円 〔走行時間短縮便益：862/862億円〕 〔走行経費減少便益：82/82億円〕 〔交通事故減少便益：73/73億円〕	<b>基準年</b> 平成22年	
<b>B/C</b> <small>(事業全体)</small> 1.4  <small>(残事業)</small> 2.1	<b>総費用</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small> 478/731億円 〔事業費：429/681億円〕 〔維持管理費：49/49億円〕	<b>総便益</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small> 1,018/1,018億円 〔走行時間短縮便益：862/862億円〕 〔走行経費減少便益：82/82億円〕 〔交通事故減少便益：73/73億円〕	<b>基準年</b> 平成22年			
<b>感度分析の結果</b> 交通量変動      : B/C=2.5 (交通量 +10%)      B/C=1.8 (交通量 -10%) 事業費変動      : B/C=2.0 (事業費 +10%)      B/C=2.3 (事業費 -10%) 事業期間変動      : B/C=2.0 (事業期間+20%)      B/C=2.2 (事業期間-20%)						
<b>事業の効果等</b> ①物流の効率化を支援 ・佐伯IC～JAおおいた蒲江配送センターへのアクセスが向上（約31分短縮） ②災害に強いネットワークの構築 ・波当津～佐伯市間の迂回アクセスが向上（約53分短縮） ・迂回解消便益【約2億円※】 ③救急医療活動の支援 ・旧蒲江町から二次救急医療施設（佐伯市）への救急搬送の支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口（約17分短縮，約4,200人） ・救急医療活動のアクセス向上便益【約13億円※】 ④観光地へのアクセスを支援 ・大分市～大分県マリンカルチャーセンターへのアクセスが向上（約10分短縮） ⑤安全性の向上 ・佐伯～北川間の整備により、国道10号及び国道388号の死傷事故件数が減少 (85件/年→43件/年：H42推計値)						
※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）						
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 大分県をはじめとする4県1市から構成される東九州自動車道建設促進協議会（会長：大分県知事）等により早期整備の要望を受けている。（平成22年10月）  <b>県知事の意見：</b> （事業継続という対応方針（原案）に対し）異存はありません。						
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 審議の結果、事業継続。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

佐伯市、延岡市の1世帯あたりの自動車保有台数は、全国平均を大きく上回っており、自動車交通への依存は、依然として高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約24%であり、そのうち用地進捗率は約88%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、事業効果を早期発現できるよう、引き続き用地買収を促進するとともに、トンネル工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・トンネル工の地山分類の変更及び法面対策工の追加による増加【約3億円増】
- ・建設発生土の有効利用等による縮減【約3億円】

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。